

<株式会社エフエム東京 第 500 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 5 年 7 月 4 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

ロバート キャンベル 委員長

佐々木 俊尚 委員

山口 真由 委員

松田 紀子 委員

柴崎 友香 委員

◇欠席委員（1 名）

秋元 康 委員

◇社側出席者（6 名）

唐島 夏生 代表取締役会長

黒坂 修 代表取締役社長

内藤 博志 取締役編成制作局長

宮野 潤一 編成制作局次長 兼 編成部長

若杉 健太 編成制作局制作部長

大橋 竜太 編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 46 分／28 分）

『SCHOOL OF LOCK!』

2023 年 6 月 26 日（月）22：00～23：55 放送のダイジェスト

〈議事内容〉

議題 1:最近の活動について

■「週刊文春×TOKYO FM」実施

昨年の好評を受け、TOKYO FM では、今年も週刊文春とのコラボレーションを実施いたしました。「週刊文春」(6月8日発売号)誌面に TOKYO FM 各番組のパーソナリティが続々登場し、6月7日(水)『Blue Ocean』、8日(木)『Skyrocket Company』、『Roomie Roomie!』、9日(金)『TOKYO TEPPAN FRIDAY supported by Ginza Sony Park』には、「週刊文春」編集長、グラビア班デスクがそれぞれ出演し、スクープの裏話を紹介しました。



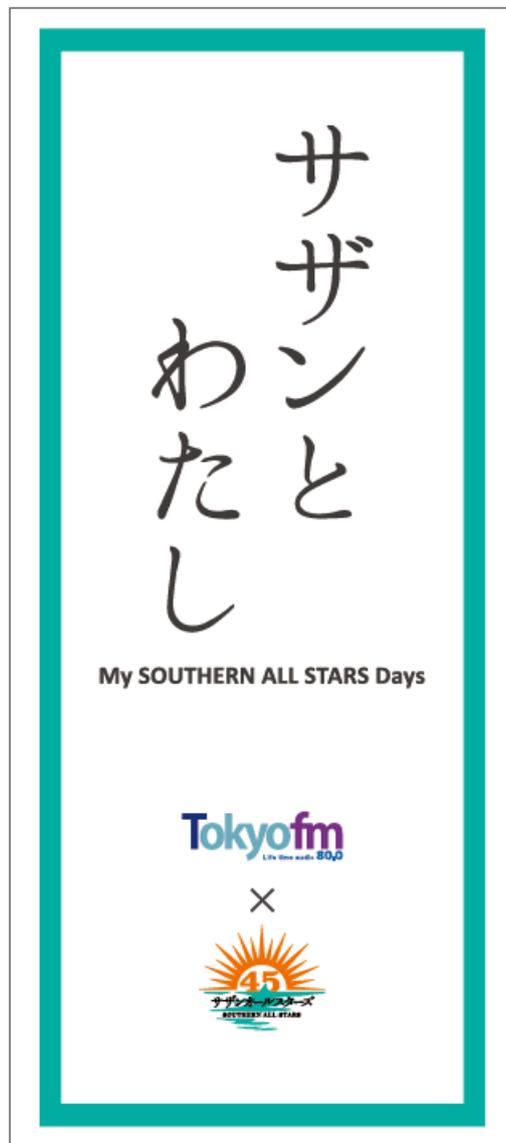
【「週刊文春」6月15日号 概要】

発売日 6月8日(木)

- 「原色美女図鑑」に住吉美紀(『Blue Ocean』)が登場。
- 「新・家の履歴書」に浜崎美保(『Skyrocket Company』)が登場。
- 「時はカネなり」に中西哲生(『TOKYO TEPPAN FRIDAY supported by Ginza Sony Park』)が登場。
- 「阿川佐和子のこの人に会いたい」にヒコロヒー(『トーキョー・エフエムロヒー』)が登場。
- 「男の肖像」に川上洋平(『Panasonic presents おと、おかし』)が登場。
- 巻末グラビア企画「ゲストと食べたい! 鉄板おやつ」に吉田明世(『ONE MORNING』『THE TRAD』)、中川絵美里(『THE TRAD』)、野呂佳代(『Roomie Roomie!』)、COCO 教頭(『SCHOOL OF LOCK!』)が登場
- 「村上 RADIO」特集

■ 「サザンとわたし～My SOUTHERN ALL STARS Days～」実施

TOKYO FM では、6月27日（火）からサザンオールスターズ デビュー45周年記念キャンペーン「サザンとわたし～My SOUTHERN ALL STARS Days～」を展開しています。45年前のデビュー以来、リスナーの人生に寄り添ってきたサザンオールスターズの楽曲やライブをめぐる忘れられない思い出のエピソードとリクエストを募集し、番組で紹介。平日ワイド番組『THE TRAD』（月～木・15：00～16：50）と『Blue Ocean』（月～金・9：00～11：00）を拠点に、月曜日から金曜日まで毎日コーナーを展開し、番組で紹介したエピソードは特設サイトにアーカイブしています。



議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『SCHOOL OF LOCK!』

2023 年 6 月 26 日 (月) 22 : 00 ~ 23 : 55 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、6 月 26 日 (月) に放送した『SCHOOL OF LOCK!』のダイジェストです。

昨今、大きな問題となっている教員の長時間労働や負担の重さ、退職者増やなり手の減少による教員不足。教員の置かれる厳しい労働環境と、教員不足による生徒たちへの影響が深刻となっています。

この放送回では、「先生」をテーマに、生徒、先生双方からメッセージを募集。生徒は先生についてどう思っているのか、生徒から届いたメッセージを紹介するとともに、もう一方の先生はどんなことに悩んでいるのか、生放送中に電話をつなぎ、校長の小森隼と、この 4 月から教頭に就任した芸人の CRAZY COCO が先生たちの生の声に耳を傾けました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○いろいろなことを考えさせられて非常に興味深かった。電話を繋いだ教師があまりにも忙しくて「大丈夫か？」と聞かれたら「私は子どもたちのためなら命を惜しまないくらいなので大丈夫」と答えるという話を聞くと、教師という職業はものすごく崇高なのだと。一方でこういう日本の現場の一般労働者の質が極めて高いというのは、海外に比べてよく言われている。OECD 水準の中でも、例えば日本の中卒がイタリア・スペインの大卒と、国語の読解力と数学力で同じレベルだというような。優秀で真面目で責任感が強いのが日本の労働者の特徴。こういう学校現場の先生がここまで一生懸命にやるからこそ、逆にブラック労働がまん延して放置されているというある種の矛盾も起きてしまっている。

○学校でいじめが放置されて「何をやっているんだ、学校は？」とみんなが怒りをぶつけたり批判したりすることがある。電話を繋いだ現場教師の話を聞いていると、必ずしも最初から介入していくことがいいとも限らないこともある。でも少し様子を見ているうちに深刻な事態になってしまうケースもある。どういう風に先生が生徒同士の関係性の中に踏み込んでいくのかというタイミングを見計らうところが、かなり難しいのだろうなど。軽々しく「先生は何をやっていたんだ？」とか「児童相談所は何をやっていたんだ？」と叩かれているけど、報道する内容が適切かどうかを改めて考える必要がある。

○放送を聴いて、思い出したのが、是枝監督の『怪物』という映画。小学校のいじめをテーマに、全く同じ物語が 3 回繰り返される。最初は母親の視点。母親から見ると学校って何もしないで放置しているだけじゃないかと。先生は何様だと。観客にも「この教師は無責任」ということが伝わってくる。2 回目は先生の視点から同じ物語を描いていて、1 回目では正義の味方のように振る舞っていた母親はまるでモンスターペアレントのように映る。3 回目は子どもの視点で、ここで「そういうことだったのか」ということが解き明かされる。あらゆる物事はいろいろな視点から見ないと本当のことが見えてこないと気づかされる。メディアに限らず、SNS で騒いでいる人も、悪人や加害者を見つけて叩いていけば世の中が良くなると勘違いしている人が多い。世の中はそんな単純にはできていなくて、そのことをちゃんと踏まえないといけない。今回の『SCHOOL OF LOCK!』は、学校現場の問題に対して、おそらく多くのリスナーが気づいていなかった視点を与えてくれたのだと感じた。意味のある番組だと思う。パーソナリティがちゃんとそこを支えながら話を進めていくのもとてもいいと思った。このように、物事を別の視点から見ていく番組はどんどんやってほしい。

○以前に、ヤングケアラーの回を聴いた時も、直接生徒たちの話を聴いていくとこ

ろが非常に興味深いと思った。今回驚いたのは、登場している教員たちの言語化能力の高さ。置かれている立場や詳しい悩みみたいところがよく表れていた。

○校長（小森隼）が 20 代。先生たちと同じ年だと盛り上がっていたが、20 代というのは普段番組を聴いている生徒にとっては年齢の近いお兄さんお姉さんとして丁度いいと思うが、言っていることが幼く感じてしまう。深みがないというか。先生の悩みに対する回答がとても浅く感じ、もったいないと思いながら聴いた。

○教員不足をテーマとして扱うのに、パーソナリティの 2 人がそもそも教員不足であることを知らないところから入ったが、もう少し前提知識があれば掘り下げられることがあったのではないかと、もう少し問題を勉強してから質問したりすべきではないか、とってしまった。しかし、逆に、この前知識も何もない状態というのが、むしろリスナーである 10 代の等身大の姿に近く、リスナーが聴きたいことを代表して聞いてくれているという側面があるのかもしれないと思った。

○この審議会をきっかけに知り、他の回も聴かせていただいた。本当にもう 1 つの学校というのをよく表して、若い人が集まって話す良い「場」になっていると感じた。その場所で教員が直接話すのはとてもいい企画だと感じた。今、本当に教員の働く環境や、長時間労働が問題になっている。難しい問題であり、これを扱ったのはとても意義のあることに感じた。パーソナリティの校長・教頭は、先生の立場というよりは、お兄さんお姉さんくらいの年齢差で、実際にそのくらいの立場で話していると思うが、確かに、この問題の背景や、もう少し詳しい視点があっても良かったとは思った。ただ、あまり深刻に伝えると、生徒からのコメントにあった、「先生が忙しそうに話しかけにくい」というような、生徒側に気を遣わせてしまうような伝わり方になる心配もあるのかなと。ただ、この問題は、この回で終わりではなく、ぜひ続けて、今の学校がどうなっているのかというのを引き続き取り上げていただけたらと期待する。

○今回出演されていた教師が 20 代と若い方ばかりだったので、もう少し幅の広い年齢の教員の方に話を聴いてみたいと思った。

○中高生がリスナーの番組で先生の悩みを聴かせるという構図が良かった。生徒に、「いじめは良くないですよ」と、一方的に言うのではなく、教員が自身の悩みとしてもどかしさを伝えているのが、実は生徒に対する良いメッセージになっているのではないかと思う。

○今回のテーマは、先生の生徒に対する悩み、生徒の先生に対する悩みだったが、生徒からの先生への悩みはあまり聴こえてこなかった。生徒が「エンジニアになりたいが、先生が全く理解してくれない」という悩みを寄せていたが、その悩みがた

<第 500 回放送番組審議会議事録>

だ紹介されるだけで、フォローされていなかった。安請け合いというか薄いなと感じてしまった。もう少し、校長・教頭のコメントに深みが出るといいと思う。

■次回の参考にさせていただきたい。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

7月29日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>